

心ふれあう



# おかやまのちよっといい話

シリーズ 17

※チランは偶数月の第一月曜日にご来店におどけています。  
過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

## 空気の震えが音になる

大寒波襲来の寒い冬の夜。一年ぶりに訪れた居酒屋での出来事でした。三十年来の知人と毎年決まっていた私たちがのでは風物詩の様なお店です。若いころは良く通ったのですが、還暦も近くなると歩くことも減っていき、いつの頃からか、おかみさんの顔を見るために年に一度顔を出しています。

カウンターだけの小さな居酒屋なので、相席になった人と話が弾むこともしばしば。その夜もたまたま一緒にあったピアノの調律師という珍しい職業の男性がいました。

そんな仕事をしている人が地元にもいるんだな、世の中色々だなと、その時思いました。

洋酒が好きな私は、朝ドラで話題に

なったウイスキーを楽しみながら昔話に花を咲かせ、いいかげんに酔いも回ってきたところでした。

その男性が「やっぱり、佐藤さん(仮名)ですよ」と言うのです。

私はドキッとしました。

名前は言っていないのに、名前を言われ、知らない人だと思って話をしていたのですが、向こうは知っているという良くあるバツの悪い状況になりました。

(はて？どこで会ったのだろう)と平静を装いながら酔った頭で考えました。が、まるで思い出せません。

男性は、私がドギマギしていると「いやー、何年ぶりでしょうか、中学の吹奏楽部の後輩の山本(仮名)です。部活に入って最初に佐藤さんに



トランペット教わったんです。」と。そこまで言われても、まだ思い出せない中、「つい」あー、そうですか！随分変わってわからなかったよ。」と合の手を入れていました。

その後も探り探りの会話が続きましたが、段々と思い出してくるものです。

当時家の帰る方角が同じ事もあり、一緒に下校したこともある仲でした。昔は男はみんな同じような丸坊主でしたし、45年も経って向こうも良くわかったものです。(私は変わらないとよく言われる方ですが)

話を聞いていると、私から吹奏楽部でトランペットを習わなければ今の仕事ではなかったと大袈裟に感謝されていました。

私は高校以降はずっとサッカー部で音楽演奏とは縁のない生活を送ってきましたから、人生わからないものです。

まさかまさかの再会でした。一気に若返ったようなそんな気持ちになって、大切な一夜になりました。

これも神様が与えてくれた大事な縁だと思えます。

これからの人生も、人との出会いを大切に、豊かな人生にしていこうと思えます。

山本さんともこれを機会にまた酒を酌み交わしたいものです。

出会いは偶然、別れは必然 (格言)

出会いは与えられるもの、別れは選択するものです。  
与えられた出会いをどう紡ぐかは私たち次第です。一期一会を大切にしたいものです。

葬儀・法要・ギフト

あなたのアーバンホール

# アーバンホール